

在宅診療に力を入れながら、 様々な社会活動で市民の医療を応援する

上甲医院

水戸市本町3-1-18
029(221)5752
診療科目 外科・内科・胃腸科・放射線科
院長 上甲 宏



水戸市の市報に掲載されている健康アドバイスで、たびたび上甲宏院長の記事を見かける。季節にあった病気の予防や健康管理など、わかりやすく呼びかける内容がありがたい。「話はまだ上手ではないので、書くほうが楽なんです。」昭和32年に父である健夫氏が前

身の「上甲外科」を開業した。52年にベッド数19の有床診療所として現在の上甲医院となった。

「決して順風満帆ではなかったですよ。」とみずからの開業を語る宏院長。東京医科大学5年のときに先代が他界。医院の存続のため、汐ヶ崎病院、水戸中央病院、東京医大附属霞ヶ浦病院の協力を得た。卒業後、同大学附属霞ヶ浦病院の外科へ入局。一般外科、特に消化器外科を専門に学んだ。現在の地での開業に至ったときは、若干20代。地元での交流も少

なく、父の礎が頼りだった。

地域医療に根ざそうという強い意志からか、上甲院長の医療活動は幅広い。水戸市医師会副会長、茨城県医師協同組合常任理事、茨城県有床診療所協議会副会長、茨城県メデイカルセンター理事などを務め、水戸市の健康づくり推進会議や介護認定審査会部会長のほか、昨年から行政改革推進委員会にも参加した。

上甲医院では、胃がんや大腸がんなど、消化器外科を専門とし、消化器内視鏡学会の専門医でもある。在宅診療も力



を入れている分野の一つだ。診察・指導・治療に加え、呼吸や栄養、排泄に関する処置を行い、在宅介護へのアドバイスをする。

「往診や在宅診療を、医師1人でまかなうのには限界があります。家族を中心に、訪問看護やヘルパーさんがサポートするという在宅医療のかたちには、私たちも応援参加しているわけです。」最近、睡眠時のいびき、特に「睡眠時呼吸症候群」の検査と治療を開始した。特殊夜間呼吸器の使用などを通じて、実績を上げているという。

肛門科では、月に2回特診日を受け、大学時代の恩師を招き、痔の治療など、羞恥心から診察をためらう患者のためのケアにも力を入れている。

開業当初、珍しがられた「上甲(ジヨウコウ)」の苗字。先代の出身である愛媛県に多い姓である。今では水戸市民の医療に親しまれる響きである。



ホスピタル

IBARAKI HOSPITAL

取材・文責 本紙

地域密着型病院レポート
いばらきの